



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週 報

2025～2026年度 RI会長 フランチェスコ・アレツツォ
RIテーマ UNITE FOR GOOD

クラブテーマ「”笑顔”のために手を取りあおう」

会長 服部光弥 幹事 小島 真

第1619回 例会 2025.10.17(金)晴

司会: 杉山寿美子君

ロータリーソング「日も風も星も」 指揮: 高橋大輔君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 服部光弥君

先ず皆様にご報告です。

前回、10月3日「理事役員会議」におきまして、次々年度会長に原兄多君を指名し、決議されたことをご報告いたします。

10月5日、伊豆中央ロータリークラブ60周年記念特別講演会にパスト会長の皆様と幹事と共に参加して参りました。会場に着くと伊豆中央ロータリーのパスト会長はじめとする多くの会員の方々が会場周辺から駐車場、そして会場への案内等の導線を確認しながら気持ちのよい笑顔でお出迎えをしてくださいました。思い返すと岡年度の35周年、そして米山ガバナー補佐主催のインターシティミーティング(IM)等々の「設営する側:主催となる側」として携わる機会をいただき、多くの勉強をさせていただけたことに感謝するとともに、設営する側の気持ちを理解することも最大の学びだったと振り返ります。では本年度会長だから参加したのか?会長じゃなければどうなのか?とも考えながら帰路につきました。ほんと感慨深いです。皆様はどうでしょうか?

さて、同日5日には「米山奨学生カウンセラーセミナー」が米山記念館で開催され、高橋カウンセラー(青少年交流委員長)そして奨学生のダイ・ユウチョブ君が出席してくださいました。ほんと「出席くださいました」・・・ですね。せせらぎの代表として15年振りの奨学生受入れに際し、カウンセラーを快諾してくれた高橋君、ほんとお疲れさまです。後程、報告があると思いますが、どうぞよろしくお願いします。前回の例会から本日まで、世の中ではたくさんの事柄がありました。自民党総裁が変わり、ノーベル生理学・医学賞。そして化学賞の受賞・・・ノーベル生理学・医学賞を受賞された坂口さんの言葉に「鈍と根で運がついてくる」～鈍は鈍感、周りに流されない鈍感さがあること。根は根気強く続けること～という言葉が印象的でした。そしてその言葉はノーベル化学賞を受賞した北川さんも同じ言葉を大切にしているそうです。

「鈍と根で運がついてくる」

～鈍は鈍感、周りに流されない鈍感さがあること。根は根気強く続けること～

さて、本日の例会、前回、前々回に引き続き「リレー卓話」となります。今年は例会が少ないプログラムということで、1例会卓話に2名のスピーカーとなります。芹澤宏昌君そして小林P会長、どうぞよろしくお願い致します。

今回の例会後も卓話をされた芹澤君・小林P会長そして次々年度会長ノミニーと囲んで笑顔溢れる時間となることを祈念して、会長挨拶とさせていただきます。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

菅野裕紀さん(三輪君のゲスト)
代ユウチョウさん(米山奨学生)



出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	37/41	90.24%	38/41	92.68%
今回	38/41	92.68%	会員総数	42名

欠 席 者

あなたが見えなくて残念でした。

勝又君、杉橋君、吉村君

(*出席免除会員の欠席者 片野君 山本君)

リー卓話

小林勝君

東京ディズニーランド

最近東京ディズニーランドの評判があまり良くない。入園料も高くなり従業員の質も下がった。本当にそうなのか今日は東京ディズニーランドを深掘りしてみます

東京ディズニーランドの開園は42年前です。入園料も3900円から今は1万円です。アトラクションの予約も今では有料になってしまい何よりディズニー系列のホテルに宿泊する人を手厚い優遇しています。つまりお金を使う富裕層と外国人をターゲットにしています。

こんなディズニーランド、経営はどうなのか、昨年の売り上げは史上最高の6800億円、入園者数も最高の2800万人だそうです。順風満帆のディズニーランド、次の事業の柱を計画しています。それはクルーズ事業です。クルーズ船の良いところは遊園地のように土地を買わなくてすみすし、何より日本は島国ですから港は沢山あります。ディズニーは今まで首都圏の客がメインでしたがクルーズ事業では北海道の客は函館、関西は神戸、沖縄は那覇、これからは日本中の人がターゲットになります。

こんなディズニーの事業展開、われわれ中小企業には関係ないのか。そうとは言えません、料金が高くてもまた行ってみたくなるディズニーランド、つまりブランド力です。お客様にファンになって貰うんです。

そしてもう一つ重要なのが客単価を上げる。値上げしてもお客様が来てくれるサービスとは何か、我々中小企業も常に考えていかなければならない事ではないでしょうか。今日は東京ディズニーランドを深掘りしてみました。

芹澤宏昌君

私とサーフィンの出会いは……小学校3年生の時です。実家は、海から防風林を挟んだすぐ先。本当に海が“庭みたいなもの”でした。毎日のように海で遊びながら育ち、夜は窓を開けてると波の音が聞こえるくらい海から近く夏になると若者が花火をあげ毎晩うるさかったのを今でも鮮明に覚えています。

ある日、台風が近づいていて、海は大荒れ。台風の時って波の音がいつもと全然違って——ゴォォッという、まるで生き物みたいな音がするんですね。そんな中……一人のおじさんが、サーフボードを抱えて荒れた海に入っていっただけです。荒れ狂う海の中で颯爽と波を乗りこなしているおじさんの姿を見て、私は「自分もやりたい！」と思いました。彼が上がってくるのをずっと待って、「僕もやりたい！」と懇願しました。返ってきた答えは——「危ないから早く帰りなさい」。誰がゆうてんねんと幼心にツッコんだ覚えがあります。今思えば、めちゃくちゃ真っ当な大人の対応ですよ（笑）でも、小3の僕はあきらめが悪い子どもでした。台風が来るたびに、そのおじさんを探しに海へ。すると……そのおじさんだけでなく、台風の日には海に入る“変わり者”たちが何人もいたんです。

ここで一つ補足として、よくサーファーって台風の中やってる人がいるイメージがあると思いますが、正確には台風の前後なんですね。台風前は風がまだ弱い時間帯が多くキレイな形でいい波になることが多いんです。一方台風後はですね、オフショアと言って風が陸から海へ吹くんですね。そうすると波が整いやすくなるんですね。台風が直撃している最中はクロウズアウトと言って波がぐちゃぐちゃで、とてもサーフィンができる状態ではないんです。つまり台風でサーフィンをするという事はピークに入るのではなく前後の短いベストタイミングを狙って入ってるんです。

話を元に戻しますが、そんな変わり者たちに手当たり次第、「僕もやりたい！」と声をかけました。でも返ってくる答えは——全部「NO」。小学校3年生ですからね

そこで僕は考えました。「まずは板を手に入れよう」と。勝手にやるしかない。小学3年生の最大のコンネクション（笑）を総動員して、友達、友達のお兄ちゃん、その友達……と聞き回り、海沿いも落ちてないかなと毎日歩いて探しました。

そしてついに——小学4年生の春。ボロボロのサーフボードを一枚、手に入れたんです。その時の気持ちは、もう言葉にならないくらい嬉しかった。気づいたら4月の冷たい海へ——もちろんウエットスーツなんてない。海パン一丁です（笑）

入っていききました。

元々海には慣れていたので、沖まで何とか行けたんですが……当然そんなに甘いものじゃない。小学生の体には大きすぎるボード。波に飲まれ、ボードに振り回され、何度も溺れました。やっとの思いで岸に戻ったその時……足の裏に激痛が走ったんです。みるみる腫れ上がり、救急病院へ直行。

診断結果は——

「オコゼ」という背びれに毒をもった魚を踏んでいて、というものでした。帰宅してからは母親にめちゃくちゃ怒られました（笑）でも不思議と、「もうやめよう」じゃなかったんです。心の中では「次こそちゃんと乗ってやる」って思っていました。

それが誰にでもありそうな小4の春の日が、僕とサーフィンの「最初の出会い」です。

そんなサーフィンには、大切なルールがあります。

みなさん「ワンマン・ワンウェーブ」という言葉、ご存知ですか？これは——「1本の波には1人しか乗れない」という意味です。複数人で同じ波を取り合えば、ボードがぶつかり、大けがにつながる。サーフボードは軽くても時速30kmくらい出ます。ぶつかったら……ヘルメットなしの交通事故みたいなんなんです。だからこのルールは、マナーではなく「命を守るためのルール」。波に対して優先権を持つのは一人。お互いを尊重して順番を守る。それがサーフィンの世界共通ルールです。簡単にいうと誰かが乗っていたら乗ってはいけないんです。

起源としては1960年代に入りサーフィンが流行し人口が増えた事でハワイのワイキキ、ノースショアを中心にカリフォルニアやマリブなど混雑するポイントが増え、ローカルサーファーがこのルールを広めました。もともと古代ハワイでは、サーフィンは宗教行事だったり王族の娯楽で、「波をシェアする」という文化もあったそうです。でも20世紀になると、ボードが進化し軽く速くなり、衝突事故も増え——「危険だから1本の波に乗るのは1人！」と世界中に広まったんです。

サーフィンって、一見のんびりして見えるかもしれませんが。でも実は——とても厳しい世界です。波は自然がつくるもので、同じ波は二度と来ない。そのたった1本を、誰が掴むか。それが海の中で常に行われている“勝負”です。理想と現実ではないですが安全のために作られたこのワンマン・ワンウェーブというルールは「譲り合い」のように聞こえますが……実際は違うんです。現実には——「うまいやつだけが波を独占できる」。それがサーフィンの現実です。

1.波のピーク(崩れ始め)を正確に読める人

2.パドルのスピードがある人

3.迷わず立ち上がれる人

そういう人が、自然と波を取っていく。サーフィンをやったことがある方は感じたことがあると思います。上手い人だけがガンガン乗れる。だから「取られた」ではなく——「まだ自分が下手だった」と思うしかない。僕も、海の中で何度も「負けました。がむしゃらに漕いでも、目の前でスツと持っていられる。あの瞬間の、置いていかれる感じ……本当に悔しかったです。でも——それが、サーフィンの面白さなんです。僕が気づいたのは、「チャンスを掴む力」も実力だということ。いい波は、みんな見えている。でも乗れるかどうかは——準備してきたか、勇気を出せるか、動けるか。サーフィンは不公平じゃない。実力主義なんです。この考え方は、実はサーフィンだけでなく私達の仕事にも、人生にも深く関わっています。

私達職人の仕事でも同じで、いい現場、いい仕事って、誰もが欲しい。でも実際に取れるのは、ちゃんと準備して、スピード感をもって、「今だ!」というタイミングで手を挙げた人だけ。焦ってもダメ、慎重すぎてもダメ。

波を見極めて、準備して、その瞬間を逃さないことが大事なんです。波を待つように、自分を磨きながら、「今だ」という瞬間を逃さない——この力が必要なんです。

僕ら職人の仕事も同じです。道具を整え、素材を見極め、仕上がりの波を読む。結果は、準備と感覚の積み重ねで決まります。

波は目の前を通り過ぎていくもの。チャンスも同じ。「あとで乗ろう」では、もうその波には二度と乗れないんです。サーフィンの「ワンマン・ワンウェーブ」は、単なるルールではなく「信頼と秩序」の文化です。本当に上手い人は波を独占するだけでなく、波を譲り、教え、次の世代にチャンスを渡す。これは——ロータリーの精神にも通じると、僕は思っています。「自分だけが波に乗って終わり」ではなく、「次の誰かにチャンスを渡す」。それが、社会を良くしていく「うねり」になる。海の中でも、地域の中でも、世界の中でも——本当に強い人は“繋ぐ人”だと僕は思います。

先日RLIを受講させて頂きリーダーシップについて考える時間があつたのですが、サーフィンの世界でも、本当に上手い人って、ただ自分だけ波に乗って終わりじゃないんです。周りを見て、次の世代に波を譲って、教えて、海を守る。それが本当のリーダー。そういう人たちが、海の秩序をつくっていくんです。」

最後に、一言だけ。

「上手いやつだけが波に乗れる。でも、海は誰にでも開かれている。」

波は誰の前にも来る。でも——準備していなければ、乗れない。だから僕は、毎日、波を見て、自分を磨き続けます。仕事も人生も、きっと同じ。失敗し波にのまれてもチャンスの波は、必ずまた来ます。そのとき、立ち上がれる自分でありたい。そう思います。



スマイルボックス

10月3日のスマイル

加藤正幸君(三島バル実行委員会川村結里子さん):いよいよ今年も「第17回三島バル」を開催致します!三島バルウィークとして、10月5日(日)から11日(土)までの1週間開催バルチケットとMAPを片手に、飲み歩き・食べ歩き・まち歩きを楽しみながら、三島の“おいしい”を堪能ください!参加店舗は52店舗!期間限定のバルメニューを楽しみながら、いつものお店はもちろん、知らなかったお店にも気軽に立ち寄れたり、仲間や家族と新しい発見ができるのも三島バルの魅力です。チケットは前売り券4500円、当日券5000円。参加店舗店頭・みしまプラザホテル・ABCチケットなどで購入いただけます!(加藤さんにも10冊お預けしております!)イベント詳細は、「三島バル」で検索ください!みなさまのご参加お待ちしております!

加藤正幸君:パッケージプラザカウでは10/7~10/11まで秋のビッグセール開催します。ぜひご利用ください。配達もしますよ!加藤貴康君:稲刈りシーズン到来です。11月上旬まで休日返上で頑張ります。

杉山寿美子君:10/5~10/11まで三島バルが始まります。前売り券、本日持っていますので必要な方はおっしゃってください。5000円の500円引きの4500円です。よろしく願いいたします。

野村諒子君:皆さん、11月1日、上岩崎公園秋まつりを開催します。秋日和ののどかな公園で生演奏もありますので、ご参加ください。

伊丹雅治君:久しぶりに皆様にお会いできて嬉しいですよ!

クラブ懇話会:9月26日クラブ懇話会を開催致しました。とても有意義な時間となりました。

10月17日のスマイル

野村諒子君:最近熊のニュースが多くなりました。芙蓉台の我が家には、猿が来たことがあります。勝手口を開けたら猿が目の前にいました。動物園の動物はかわいいですが、野生動物には気をつけましょう!

服部光弥君:皆様、日々東海道新幹線をご利用大変ありがとうございます。11月1~14日、東京~新大阪間でJR東海が所有するN700S車両の1号車、6号車、そしてグリーン車の8号車に設置する各6台のカメラ映像をAI(人工知能)で解析し、客層の分析をします。訳あって映りたくない方はこれらの車両を避けてください。

伊丹雅治君:本日早退させていただきます。申し訳ございません。

おめでとう

会員誕生日	10月28日	杉橋 聡君
	10月31日	野村諒子君
入会記念日	10月7日	杉橋 聡君
	10月26日	田村康晃君
	11月4日	大村典央君

